

ラミングの比較考察を行い、ペアプログラミングの教育効果はペア間の能力差に関係があるという仮説を立てた。次にその仮説を証明するため、コードレビュー能力に差があるペアでのペアプログラミングの実験・評価を行った。その結果、能力の高い人と低い人でペアを組むことによって効率的な知識共有ができる場合もあるが、その差が大き過ぎると逆効果になることがわかった。これらの結果をもとに、より高い効果が得られるように完全されたペアプログラミング手法を用いた教育方法を提案する。

(b) 博士(前期)論文概要

堀米 諭

健康増進支援システムの研究

近年、日本は食生活の乱れや、運動不足、ストレスなどが原因となる生活習慣病の増加が問題となっている。厚生労働省では、生活習慣病の発症を予防する一次予防に重点を置いているが、総合的に健康増進の意欲を向上させ健康増進の継続化を促すことを目的としたシステムは存在していない。そこで、筆者は健康行動理論に着目し、それを基本とした健康増進支援システムの研究開発を行うこととした。

2007年度には健康行動理論を参考に、自己効力感、計画的行動理論、社会支援という視点からバイタルデータ管理機能、運動管理機能、コミュニティ機能、イベント機能を実装した健康増進支援システムを開発した。

しかし、実装したこれらの機能に加えて電子カルテの連携や栄養管理も必要であるというニーズが実際の医療現場から寄せられた。そこで、筆者の所属する研究室で電子カルテ、栄養指導システムおよび上記の健康増進支援システムを統合させた情報システム IHISS(Integrated Health Improvement Supporting System)を開発することとした。筆者はシステム全体の基本設計と健康増進支援に関わるいくつかの機能の開発、評価を行った。

(c) 博士(後期)論文概要

該当無し

(d) 講座所属学生が第一著者として査読ありの論文誌掲載論文一覧

該当なし

(e) 講座所属学生が各学会で登壇発表した実績一覧

該当なし

(f) 学生が単独で受けた受賞や表彰一覧

該当なし

2.9.4. その他の活動

平成20年度 岩手県医療福祉情報化コンソーシアム「ポラーノ広場」の活動

1. 活動の目的

岩手県における医療・福祉分野の情報化に関する実態調査と共同研究開発、国内外の技術調査および優れたシステムについての普及・啓発活動を行うことを目的とし、平成20年度は以下の活動を行った。

2. 活動内容(以下、敬称略)

2.1 主な調査研究、発表、講演活動

- (1) ポラーノ広場で議論してきた「ライフサポートネットワーク」の概念に基づき、平成 18～19 年に遠野市向けのシステムを構築し、実証実験を行った。本件は、岩手県立大学全学プロジェクト・少子高齢研究プロジェクト(リーダー:米本清)によるものであるが、ポラーノ広場メンバが中心となって活動した。ポータルサイトは下記の通り。

<http://tmg-works.com/tls/>

平成 20 年度はその成果をまとめ、論文発表や報告書作成を行った。

また、遠野市宮守地区を対象とした子育て支援システム(保護者メールリスト)を構築し、実証実験を行った。

- (2) 北上市にある「坂の上野田村太志クリニック」からのご要望(公募型地域課題研究)により、診療所用電子カルテと連携した統合型健康増進支援システムの研究(代表:佐々木淳、盛岡短期大学部食物栄養専攻教員も参加)を行った。

- (3) 岩手県社会福祉協議会における取り組み

厚生労働省社会福祉推進事業に対して岩手県社会福祉協議会が応募した「市町村社協が民間事業者の協力を得て取り組むICT(情報通信技術)を活用する予防型見守り安否確認システム開発のための利用者調査と見守りシステムの試行的実施と検証」が採択された。これに伴い、岩手県社協、岩手県立大学、各市町村社協、民間事業者からなる「ICT 予防型安否確認プロジェクト」を発足させた。岩手県立大学社会福祉学部とソフトウェア情報学部は本テーマについての受託研究(代表者:佐々木淳)を行った。

- (4) 川井村における取り組み

L モードを活用した高齢者安否確認システムに代わる次世代システムについて検討を行うため、8月26日(火)～8月27日(水)川井村で合宿を行い、端末の操作性に関する利用者の評価調査を行った。

12月18日(木)に川井村で開催された川井村見守りネットワーク「今日も発信・元気だよ！」安否確認等システム検討委員会において、電話機を用いた安否確認システムの説明を行った。そのまま、一部の方には利用評価していただくこととした。

2.2 会議の開催案内等

- (1) コアメンバ会議を4月17日(木)18:00～サンセール盛岡で開催し、平成20年度総会、今後の会の運営などについて話し合った。
- (2) 5月28日(水)9:00～、ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング、5月29日(木)13:00～、岩手県立大学で開催された「ソフトウェア産業活性化に関する国際シンポジウム」の案内を出した。
- (3) 岩手県立大学アイーナキャンパスで実施する「IPU 情報システム」の受講案内を出した。
- (4) 平成20年度ポラーノ広場総会及び講演会を開催した。

1. 日時:6月11日(水)15:20～

2. 場所:岩手県立大学 アイーナキャンパス (アイーナ7階) 学習室1

3. プログラム:

3.1 定期総会(15:20～15:50)

平成19年度活動報告・決算報告、平成20年度活動計画・予算計画審議 他

3.2 記念講演会(16:00～18:00)

1) ポラーノ広場会長 船生 豊 「情報化社会とソフトウェア」

2) 岩手県立大学社会福祉学部教授 狩野 徹 氏「高齢者の街なか居住」

3) ポラーノ広場コアメンバ 鎌田 弘之 「お一人様の高齢者専用賃貸住宅」

4) 日本テクト株式会社営業統括部第二営業グループ 池田 哲之 氏「総合ベッドサイドシステム『MediSystem(r)』の高齢者専用賃貸住宅用向け展開について」

3.3 意見交換会(18:30～、東家駅前店)

(5) 岩手県立大学卒業研究発表会(2月9日)の開催案内を出した。

(6) 3月6日(金)13:00～, アイーナで開催された「ソフトウェア国際シンポジウム」の案内を出した。

2.3 ポラーノ広場ホームページの改善

これまで、ポラーノ広場のホームページは岩手県立大学内のサーバに設置していたが、所管は外部の方が望ましいため、レンタルサーバに移植した。また、会員のページには会員の共通のIDとパスワードを用いていたが、セキュリティ上の問題があったため、平成20年度に個別のIDとパスワード認証によって会員のページに入れるよう改善した。また、ホームページ上での入会申し込み、質問なども投稿できるようにした。しかし、このページからの不正な書き込みが発生しており、さらに対策が必要である。

2.4 その他

総務省の戦略的情報通信研究開発制度(通称:SCOPE)の平成21年度地域ICT振興型研究開発課題の1つとして「メンタルクローニング手法を用いたバーチャル・ドクター・システム」の研究が採択された(代表:藤田ハミド)。本研究では、ポラーノ広場のネットワークに基づいて「バーチャル・ドクター・システム(VDS)評価委員会」を設置し、平成21年度～22年度、研究内容の評価を行うこととなった(担当:佐々木淳)。

3. 総括

コアメンバの業務がさらに多忙となり、平成20年度はNEWSLETTERの発行ができなかった。また、コアメンバ会議の開催は1回にとどまった。しかし、ポラーノ広場で議論してきた「ライフサポートネットワーク」構想に基づき、川井村の見守りネットワークだけでなく、紫波町、遠野市フィールドでのシステム開発・実証実験等幅広い活動を行うことができた。さらに、これらの成果や人的ネットワークを活用することにより厚生労働省、総務省関連からの補助事業を獲得することができた。
